

モミガラを利用した無仮植育苗によるイチゴ‘さがほのか’の生育・収量

豆田和浩・石橋泰之・八谷和美・森園寛治
(佐賀県農業試験研究センター)Kazuhiro Mameda, Yasuyuki Ishibashi, Kazumi Hachiya and Kanji Morizono:
The growth and yield of strawberry cultivar ‘Sagahonoka’ grown from runners propagated directly
on the rice hull without temporary planting

イチゴ品種‘さがほのか’は‘とよのか’等と比べて、採苗時期による花芽分化への影響は少なく、生育の揃いも良いことから晩期採苗が可能であり、この特性を活かした二段階採苗によって育苗の効率化と省力化が図れることをこれまでに報告した。

本試験では、さらに育苗の省力化と経費削減、土壌病害からの回避ができる育苗方法として、モミガラを敷き詰めた育苗床に子苗を這わせて定植時に採苗する無仮植育苗について検討した。

1. 材料および方法

供試品種に‘さがほのか’を用い、2002年5月20日に本葉1.5枚程度の子苗を採苗しポット育苗した。

その後6月13日に、大型のポリ製雨樋を用いた栽培槽(幅20cm, 深さ18cm)にボラ土, ピートモスを主体とした有機培地を入れ, 本葉4枚程度となった苗を株間35cmで植え付けて親株とした。

育苗は、遮光率40%フィルムを被覆した雨よけハウス内の高さ70cmのベンチ上で行った。親株栽培槽をベンチの端に設置し, 余地部分(幅100cm)に透水シートを敷き, その上にモミガラを約10cmの厚さに敷き詰めて育苗床を作成した。子苗の採苗は, 本葉1.5枚程度の発根し始めのものをピンで随時配置, 固定した(第1図)。

試験区は無仮植育苗床へ施肥によって(1)有:被覆肥料の140日タイプでN1.0kg/aを表層施肥(2)無:無施肥の2区を設け, 対照区として7月下旬にポット鉢受け育苗したのものと比較した。

なお, 親株床では6月14日, 7月25日, 8月23日にN560mg/株ずつを施肥した。

栽培には7月下旬に固定した無仮植育苗を用い, 9月19日に切り離し定植した。

栽植様式は畦幅120cm, 株間23cm, 2条外成り(725株/a), 地床マルチ栽培とし, 11月中旬以降は, 電照(4~8時間, 日長延長)と加温(最低設定8℃)を行い, 4月末まで収穫した。

施肥は, 基肥N1.4 P₂O₅1.4 K₂O1.4kg/a, 10月8日に追肥N0.5 P₂O₅0.4 K₂O0.5kg/a, 12月以降は適宜液肥で追肥した。

調査は, 子苗発生数, 苗質, 収穫開始期, 花数, 収量等について1区10株, 2反復で行った。

2. 結果および考察

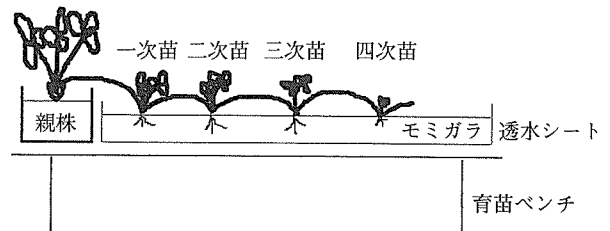
1) 無仮植育苗床への施肥の有無が子苗の発生数に及ぼす影響は小さく, 9月上旬までに親株1株当たり約21株の子苗が生じた。そのうち本葉4枚以上の定植できる苗質のものが, 有施肥区では15株, 無施肥区では13株であった。

2) 定植時の苗質について, 同時期に鉢受けしたポット苗に比べて無仮植育苗は葉数が少なく, 草高が低く, クラウン径が小さく, 根重が軽く, やや小ぶりの苗となった。花芽分化程度は, ポット苗より無仮植育苗の方が進んでいた。また, 無仮植育苗では有施肥区が無施肥区より生育量が大きかった。

3) 定植後の生育について, 頂花房の収穫開始日は, ポット苗に比べて無仮植育苗の方が早く, 有施肥区が無施肥区より早い傾向にあった。また, 頂花房の花数は, ポット苗より無仮植育苗がやや少なく, 無仮植育苗でも無施肥区は有施肥区比べて少ない傾向にあった。

4) 収量について, 商品果収量は, ポット苗に比べて無仮植育苗・有施肥区は年内収量が多く, それ以降はやや少なく, 全期間では同等の収量が得られた。また, 無仮植育苗・無施肥区の収量は, 他区よりやや劣った。

以上のことから, ‘さがほのか’では, モミガラを育苗床資材として用いた無仮植育苗による栽培が可能で, 育苗床へ施肥することで苗質の向上が図れる。



第1図 育苗ベンチを用いたモミガラ育苗床による無仮植育苗の模式図

第1表 無仮植育苗における育苗床への施肥と子苗数の推移

試験区	7月			8月			総数	適苗数
	上	中	下	上	中	下		
有施肥	3.0	2.0	4.8	4.5	4.4	2.2	20.9	15.0
無施肥	2.7	2.9	5.0	4.3	4.0	2.1	21.0	13.0

注) 9月10日調査, 親株1株当たり。適苗: 本葉4枚以上の苗。

第2表 無仮植育苗における育苗床への施肥と定植時の苗質, 頂花房の生育および収量

試験区	定植時の苗質					頂花房			a 当たり商品果収量			
	葉数 (枚)	草高 (cm)	クラウン径 (mm)	根重 (g)	花芽	出葉数 (枚)	収穫開始日	花数	年内 (kg)	~2月 (kg)	~4月 (kg)	計 (kg)
無仮植・有	5.0	18.3	9.1	0.43	2.1	3.5	12/3±6.3	9.1±2.5	110.9	110.3	298.9	520.1
無仮植・無	4.9	16.6	8.7	0.50	1.6	3.8	12/5±5.8	7.1±3.2	76.1	73.0	314.9	463.9
ポット苗	6.3	22.4	10.0	0.68	1.0	4.2	12/8±3.7	10.1±2.8	82.4	122.3	329.0	533.7

注) a) 有, 無: モミガラ育苗床への施肥の有無。

b) 採苗時期: 7月下旬, 本葉2枚前後の発根し始めの子苗。

c) 花芽: 花芽分化指数(未分化0, 肥厚初期0.5, 〃中期1.0, 〃後期1.5, 2分期2.0)。